

供覽

内閣書記官

(一) 露支同盟密約 千八百九十六年五月

滿洲問題關係ノ重要條約摘要

(本書ハ一八九六年五月露帝戴冠式ニ參列セル李鴻章カ「プリン
ス・ロバノフ」ト聖彼得堡ニ於テ締結シタルモノニシテ密約ノ有
效期間ヲ經タル後李鴻章ノ息ニシテ駐英支那公使李經邁カ倫敦ノ
「デイリー・テレグラフ」ニ於テ發表セルモノナリ詳細ハ歐文ノ註
ヲ參照スヘシ)

第一條 東方亞細亞ニ於ケル露西亞國領土ニ對スルト又ハ支那國若ハ朝
鮮國ニ對スルトヲ間ハス日本國ノ企ツル一切ノ侵略ハ必然的ニ本條約
ノ即時適用ヲ招致スルモノト之ヲ認ム
右ノ場合兩締約國ハ其ノ當時兩締約國力使用シ得ル一切ノ陸海軍ヲ以
テ相互ニ支持シ且各締約國ノ兵力ニ對スル糧食供給ノ爲成ルヘク多ク
ノ援助ヲ爲スコトヲ約ス

第二條 兩締約國力共同動作ヲ執ルニ至リタルトキハ他方國ノ同意ヲ得
ルニ非レハ敵國ト平和條約ヲ單獨ニ締結スルコトヲ得サルモノトス

第三條 軍事動作中ハ支那國一切ノ港ハ必要アル場合ニ於テ露西亞國軍
艦ニ開放セラルヘク露西亞國軍艦ハ右港ニ於テ其ノ必要トスル一切ノ
援助ヲ支那國官憲ヨリ受クルヘシ

第四條 支那國政府ハ露西亞國陸軍力侵略セラルルノ怖アル地點ニ接到
セルコトヲ容易ナラシメ且其ノ抵抗手段ヲ確保スル爲支那國「アム
ル」(黒龍江)省及「ギリシ」(吉林)省ヲ横斷シテ浦潮斯得ノ方向
ニ一條ノ鐵道線ヲ建設スルコトニ同意ス該鐵道ノ露西亞國鐵道トノ聯
絡ハ支那國領土又ハ支那國皇帝陛下ノ主權ヲ侵害スルノ口實ト爲ラサ
ルヘシ該鐵道ノ敷設及經營ハ露支銀行ニ之ヲ許與シ且之カ爲締結セラ
ルル契約ノ條款ハ露西亞國駐劄支那國公使及露支銀行間ニ於テ正式ニ
商議セラルヘシ

第五條 戰時ニ於テハ第一條所定ノ通り露西亞國ハ其ノ軍隊ノ輸送及軍
隊ニ對スル糧食支給ノ爲第四條所定ノ鐵道ヲ自由ニ使用スルコトヲ得
ヘシ平時ニ於テハ露西亞國ハ其ノ軍隊及軍需品ノ通過輸送ノ爲同一ノ
權利ヲ有ス但シ途中停車ハ輸送事務ノ必要ヲ理由トスル場合ノ外之ヲ

許サス

第六條 本條約ハ第四條所定ノ契約ヲ支那國皇帝カ確認シタル日ヨリ實
施セラルヘク右實施ノ日ヨリ十五年間有效トス右期間終了前六月ニ於
テ兩締約國ハ本條約ノ更改ニ關シ商議スヘシ

(二)滿鐵ニ關スル條約

◎東支鐵道建設及經營ニ關スル契約 一八九六年九月八日於柏林調印

第十三條第二項

八十年經過シタル時ハ鐵道ハ其ノ一切ノ附屬物ト共ニ無償ニテ支那國
政府ニ引戻スモノトス
全鐵道線カ完成シ且運轉セラルル日ヨリ三十六年ノ期間經過スルトキ
ハ支那國政府ハ一切ノ投下資本並鐵道ニ關スル一切ノ債務及其ノ利息
ヲ全部償還シテ右鐵道ヲ買戻スノ權利ヲ有ス

◎東支鐵道南滿洲支線建設及經營ニ關スル契約

一八九八年七月六日於聖彼得堡調印

前文「東清鐵道幹線ニ屬スル一停車場ヲ起點トシ遼東半島ノ大連灣

及旅順口ニ延長敷設スルコトヲ許ス此支線敷設ニ付テハ光緒二十二年八月初二日（註 前記九月八日柏林ニテ調印ノモノ）清國政府露清政府ト締結セシ契約ノ各章程ニ照シテ辦スヘシ云々

(三) 旅大問題ニ關スル條約

一八九八年三月二十七日於北京調印

◎遼東半島租借條約

第三條租借期限ハ本條約調印ノ日ヨリ二十五年トシ且右期間後更ニ兩國政府ノ互認ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

(四) 守備兵力配置ノ條約

◎講和條約追加約款

明治三十八年九月五日於米國ボーツマス調印

第一條第三項

膠州國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ保護セムカ爲守備兵ヲ置クノ權利ノ保留ス該守備兵ノ數ハ「一キロメートル」毎二十五名ヲ超過スルコトヲ得ス

◎滿洲ニ關スル條約附屬協定 明治三十八年十二月二十二日於北京調印

第二條若シ露國ニ於テ其ノ鐵道守備兵ノ撤退ヲ承諾スルカ或ハ清露兩

國間ニ別ニ適當ノ方法ヲ協定シタル時ハ日本國政府モ同様ニ處辨スヘキコトヲ承諾ス若シ滿洲地方平穩ニ歸シ外國人ノ生命財產ヲ清國自ラ完全ニ保護シ得ルニ至リタル時ハ日本國モ亦露國ト同時ニ鐵道守備兵ヲ撤退スヘシ

(六) 所謂二十一箇條約

南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約 大正四年五月二十五日調印

第一條 兩締約國ハ旅順大連ノ租借期限並南滿洲鐵道及安奉鐵道ニ關

スル期限ヲ何レモ九十九箇年ニ延長スヘキコトヲ約ス

第二條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル爲

又ハ農業ヲ經營スル爲必要ナル土地ヲ商租スルコトヲ得

第三條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ自由ニ居住往來シ各種ノ商工業其

他ノ業務ニ從事スルコトヲ得

第四條 日本國臣民カ東部內蒙古ニ於テ支那臣民ト合辦ニヨリ農業及

附屬工業ノ經營ヲナサントスルトキハ支那國政府之ヲ承認スヘシ

說明

所謂支廿一箇條ナルモノハ

交渉中削除セシモノ一件

(漢冶萍公司附近鑛山ノ件)

支那自ラ聲明セシモノ二件

(山東省及支那沿岸港灣等ノ件)

他ノ契約ニテ解決セシモノ一件

(吉長鐵道經營委任ノ件)

後日ニ保留セシ希望條項七件

(中央政府ノ顧問、病院、寺院、學校ノ土地ノ所有權、警察、兵器、南支諸鐵道、福建省ノ企業、布教權)

其儘又ハ訂正ノ上實施セラレシモノ十件

デアルカラ支那人ノ言フガ如ク全部ヲ強調シタ譯デモ無ク、實施又ハ解決セシ十一件ノ内デモ大部分ハ其要求ヲ輕減セラレテ居ルノデアル。而カモ今日ニ到ツテハ

條 箇 一 廿

華府會

議ノ結

果消滅

シタル

モノ

山東省ニ關スル四件

南漢東蒙ニ關スル二件

保留セシ希望條項ノ七件

計十三件

多キニ及ビ殘ルモノハ前記ノ如ク

一、旅大租借及南滿、安奉兩鐵道

期限延長ノ件

二、土地ノ租借權

三、居住、往來及農業ノ自由ノ權

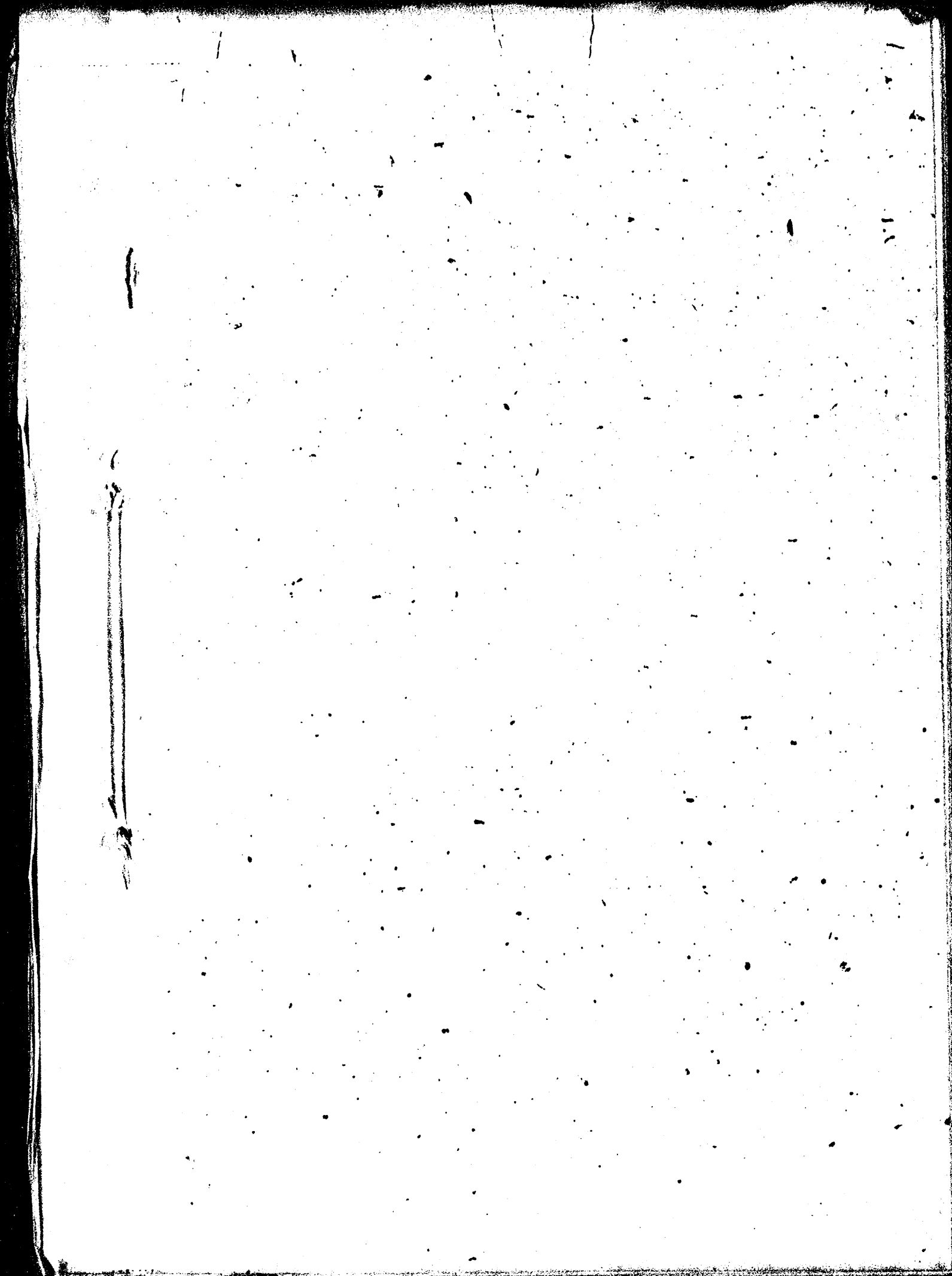
四、鑛山(九箇所)採掘權

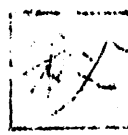
五、漢冶萍公司日支合辦ノ權

支那側ニ異論アリ

支那側ノ實行不確實

六件デアツテ、不安定不確實ノモノ計リデアル。





昭和六年十二月十五日

内閣書記官



十二月中旬
迄に於ける
満洲事変経過の概要

古
部
下
サ
レ
後
部
隊
名
の
秘
二
付
合
と
還

主
要
事
件
陸
軍
省
今
も
思
考
中

陸
軍
省
調
査
班